

「Surgery for Cancer of the Esophagus」

by Hiroshi Akiyama

久留米大学医学部教授(外科学)

掛 川 暉 夫

本書は、虎の門病院副院長秋山洋先生が、長年にわたる豊富な臨床経験に基づいた食道癌の治療体系のエッセンスを凝縮したものである。

秋山先生が東京大学、および虎の門病院でなされてきた研究は、一貫して極めて臨床に即したものであり、すべてが外科治療成績向上に直結している。わが国における食道癌手術の5年生存率が平均20～25%である現状において、彼の5年生存率が35%と群を抜いていることよりみても明らかである。この「Surgery for Cancer of the Esophagus」は、その治療成績を獲

得するに至る彼の philosophy, techniques を、貴重な experience に基づき集積したものである。すなわち食道癌に関する基本的な外科解剖や吻合手技から、最も高度な判断と手技を要する重複癌の手術などが網羅されている。更にそのうえ、文中に“臓器や組織は atraumatic に gentle に扱うこと”、“大きな手術も小さな手術の積み重ねであり、常に基本的な手術を疎かにしてはならない”という、彼の日頃の philosophy が貫かれている。

また、彼は下咽頭頸部食道癌に対する非開胸食道拔去法、胸部食道癌

に対する頸部上縦隔郭清、下部食道噴門癌に対する左胸腹連続切開法によるリンパ節郭清など、今日では標準手術となっている術式に対し、指導的役割を果たしてきた先達の1人であるが、これらの手術が必要となる病理組織学的背景と共に、その手技や治療成績が極めてわかりやすく書かれている。

また、随所に実際に経験された貴重な case history が紹介されていることもこの本の興味深い特徴となっているが、癌の外科治療一筋に約30有余年、豊富な症例から得られた貴重な経験を生かしてのみ、初めて書きうる従来にはみられない特徴のある食道癌の外科手術書であり、広く諸外国でも愛読されるものと信じて疑わない。

286 pp. with figs. 1990 B5 判
¥ 32,400(税抜き)
The Williams & Wilkins Company,
Baltimore

日本総代理店 医学書院洋書部